

和光市域から出土した墨書土器の基礎的検討

中岡 貴裕

1. はじめに

埼玉県内の出土文字資料（墨書土器・刻書土器等）については、既に埼玉県・埼玉県教育委員会によって『埼玉県史料叢書 11 古代・中世新出重要史料一』において集成が試みられており、埼玉県下におけるそれら出土状況に関する近年の到達点を示す成果となっている（埼玉県教育委員会 2011）。また、明治大学古代学研究所においては全国的な墨書土器、刻書土器、文字瓦の集成・データベース化を行っており、その成果は「全国墨書土器・刻書土器、文字瓦横断検索データベース」を公開するに至るなど、近年の墨書土器・刻書土器等の出土文字資料をめぐる研究環境は従来に比して飛躍的に向上していると言えるだろう。

しかし、当然ながら埋蔵文化財の発掘調査は国内各地で随時行われており、新たな資料も逐次報告されている。また、全国的な集成は言うまでも無く重要ではあるが、全国を視野に入れた上で改めて地域を振り返り、そしてその意味を考えていくことは必要な作業であると考えられる。

本稿はそうした課題意識を念頭に、和光市域から出土した墨書土器を集成し、それらを概観することで今後の研究に寄与することを目的とする。

2. 集成の基準

本稿の資料集成にあたっては次の基準を設け、それに従い作業を行った。

- ①集成する土器の主たる帰属時期は奈良・平安時代とする。
- ②集成の対象とする遺跡は、現在の埼玉県和光市域に所在するものに限る。
- ③文字の解釈及び出土土器・住居跡の年代観

については、各報告書の見解（発表当時）によるものとする。ただし、実見の結果等により異にする見解を述べる場合は、その旨を断りの上記載することとする。

- ④集成の対象とする資料は、発掘調査報告書が刊行されたものに限ることとする。

3. 和光市域における墨書土器

（1）墨書土器が出土した遺跡

和光市域には現在周知の埋蔵文化財包蔵地が43箇所あり、この中で主に奈良・平安時代の遺跡と認識されているものは13箇所である。墨書土器は上記の13箇所の奈良・平安時代のうち、花ノ木遺跡、峯前遺跡、吹上遺跡、市場峡・市場上遺跡、仏ノ木遺跡、漆台遺跡の6遺跡から出土している（表1・図1）。以下、墨書土器が出土した遺跡とその概要について述べる。

花ノ木遺跡は新倉2丁目の舌状台地上に立地し、標高は24～28m程である。これまでに16回の発掘調査が行われている。奈良・平安時代の遺構・遺物の出土量は比較的多く、特に埼玉県埋蔵文化財調査事業団による調査区からは青銅製火熨斗等が出土していることが特筆される。墨書土器は第13次調査の際に出土した第38号住居跡（9世紀前半）から1点（図2・1）が検出されている。なお、文字の判読には至っていない。

峯前遺跡は新倉2丁目の舌状台地上に立地し、標高は25～29m程である。これまでに8回の発掘調査が行われている。墨書土器は第1次調査の際に出土した第5号住居跡（10世紀代）から4点と、調査区内で1点が検出されている。第5号住居から出土した墨書土器は「加」と「万」を合わせたと考えられる文字のほか、判読できないものが3字確認される（図2・2～5）。調査区内で出土した1点（図2・

6) は灰釉陶器皿であり、「守」と判読される墨書が見受けられる。

吹上遺跡は白子3丁目に所在する遺跡である。これまでに6回の発掘調査が行われている。墨書土器は第3次調査の際に出土した第8号住居跡(8世紀第3～4四半期)と、第29号住居跡(8世紀第3四半期)から各1点検出された。第8号住居跡から出土した墨書土器(図2・7)の文字は「定」と判読される。なお、第29号住居跡から出土した墨書土器(図2・8)は判読できない。

市場峡・市場上遺跡は白子3丁目に所在する。これまでに29回の発掘調査が行われ、墨書土器は第7次調査第3号住居跡(9世紀後半)から「吉井」と判読できるものが1点(図2・9)、第19次調査の第47号住居跡(9世紀第3四半期)から「井」と判読できるものが1点(図2・10)、第53号住居跡(9世紀半ば～第4四半期)から「巾(カ?)」と判読されるものが1点(図2・11)と「吉井」と判読できるものが1点(図2・12)の合計4点が検出されている。

仏ノ木遺跡は和光市下新倉3丁目に所在する。これまでに8回の発掘調査が行われ、墨書土器は第3次調査第2号住居跡(9世紀後半)

から1点¹(図2・13)、第4次調査第3号住居跡(9世紀末～10世紀初頭)から判読不明が1点(図2・14)、第5次調査第7号住居跡(9世紀後半)から「尺」又は「艮」と判読されたものが1点(図2・15)、第6・7次調査第8a・b住居跡(9世紀末～10世紀初頭)から判読不明なものが1点(図2・16)の、合計4点が検出されている。

漆台遺跡は荒川と谷中川に挟まれた舌状台地上の基部に位置し、標高は28～29m程である。これまでに2回の発掘調査が行われ、第1次調査の際に出土した第1号住居跡(9世紀第2四半期～第3四半期)から「大」と判読される墨書土器が1点(図2・17)検出されている。なお、同住居跡からは須恵器製の円面硯が1点(図2・a)が検出されている。

(2) 釈文について

前項で述べたとおり、推定を含め文字として解釈できるものは「加万」の合わせ文字、「守」、「定」、「吉井」、「井」、「巾」、「尺」又は「艮」、「大」である。

各遺跡に共通する文字は少ないが、市場峡・市場上遺跡からは「吉井」が2点、「井」が1

表1 和光市域出土墨書土器一覧

No.	遺跡No.	遺跡名	調査次	出土遺構名・遺物番号	器種	墨書記載位置	釈文	出典(市報告書)	埼玉県集成	明治大学DB
1	2	花ノ木遺跡	13次	第38号住居跡・4	坏	底内面	?	62集		
2	3	峯前遺跡	1次	第5号住居跡・3	坏	外面	「加万」の合わせ文字	12集	○	○
3	3	峯前遺跡	1次	第5号住居跡・13	皿	外面	?	12集	○	○
4	3	峯前遺跡	1次	第5号住居跡・14	坏	外面	?	12集	○	○
5	3	峯前遺跡	1次	第5号住居跡・15	坏	外面	?	12集	○	○
6	3	峯前遺跡	1次	調査区出土遺物・13	坏	底外面	「守」	12集	○	○
7	13	吹上遺跡	3次	第8号住居跡・2	坏	底外面	「定」	30集	○	○
8	13	吹上遺跡	3次	第29号住居跡・12	坏	底外面	?	30集	○	○
9	17	市場峡・市場上遺跡	7次	第3号住居跡・6	坏	底外面	「吉井」	28集	○	○
10	17	市場峡・市場上遺跡	19次	第47号住居跡・1	坏	底外面	「井」	51集		
11	17	市場峡・市場上遺跡	19次	第53号住居跡・12	坏	外面	「巾」	51集		
12	17	市場峡・市場上遺跡	19次	第53号住居跡・13、14	坏	内面	「吉井」	51集		
13	36	仏ノ木遺跡	3次	第2号住居跡・1	坏	底内面	?	27集		○
14	36	仏ノ木遺跡	4次	第3号住居跡・2	皿	内面	?	36集	○	○
15	36	仏ノ木遺跡	5次	第7号住居跡・2	坏	内面	「尺」又は「艮」	56集		
16	36	仏ノ木遺跡	6・7次	第8a・b号住居跡・1	坏	底外面	?	65集		
17	43	漆台遺跡	1次	第1号住居跡・2	坏蓋	外面	「大」	20集	○	○
a	43	漆台遺跡	1次	第1号住居跡・1	硯			20集		

【凡例】

- ・墨書が施された土器(1～17)に加えて墨書土器関連遺物として須恵器製円面硯(a)1点を含めている。
- ・「釈文」に掲げる文字は、推定を含め認識されているものを示す。判読ができないものは「?」と表示した。
- ・「出典(市報告書)」は、叢書名「和光市埋蔵文化財調査報告書」の巻次を示す。
- ・「埼玉県集成」は、『埼玉県史料叢書11 古代・中世新出重要史料』の掲載有無を示す。
- ・「明治大学DB」は、明治大学古代学研究所が公開する「全国墨書・刻書土器、文字瓦 横断検索データベース」の掲載有無を示す。

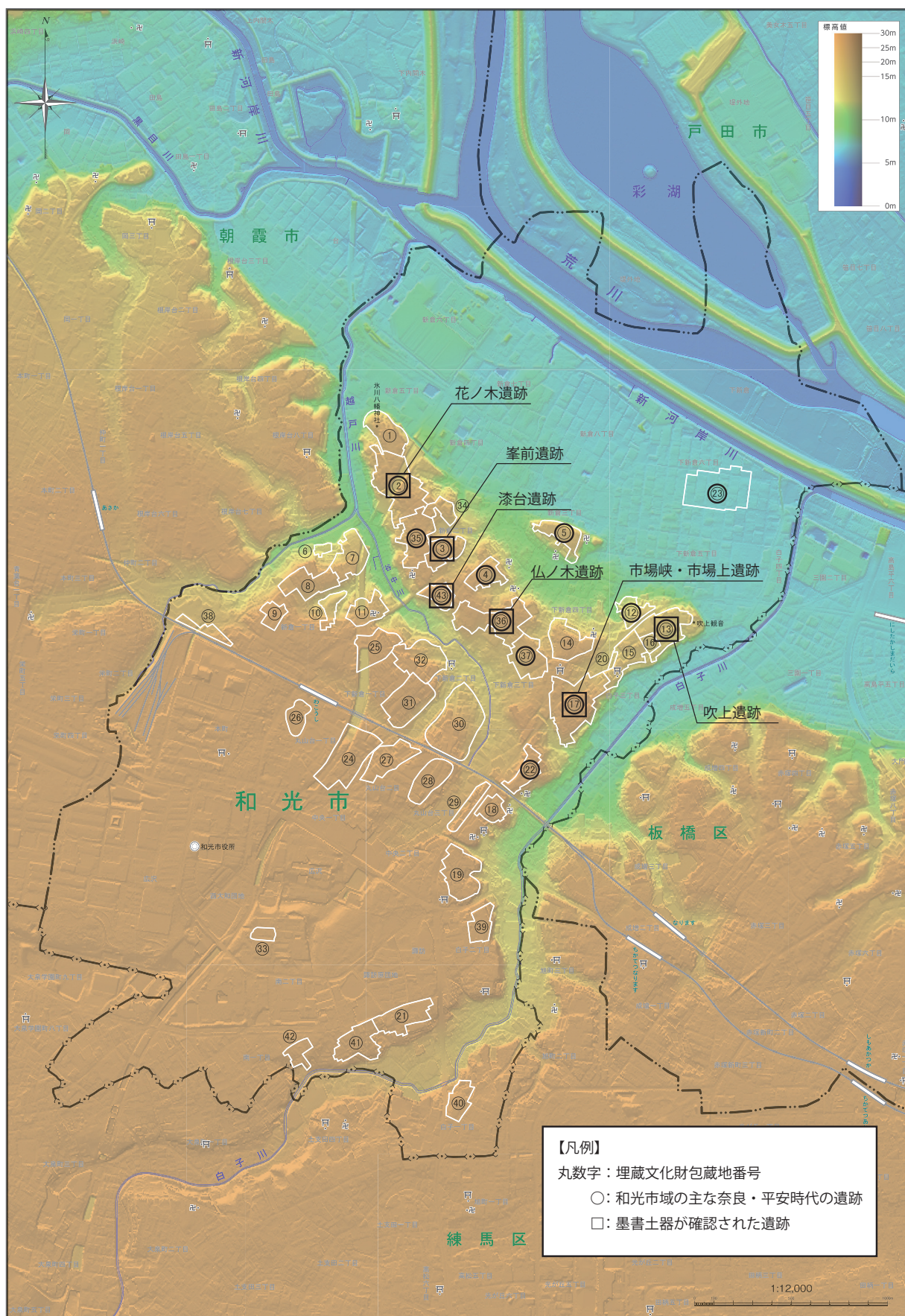


図1 和光市域の奈良・平安時代の主要遺跡と墨書土器出土遺跡
 (和光市教育委員会 2023『国史跡指定記念午王山遺跡展 ～独立丘に営まれた弥生時代の環濠集落～』p4を加工して使用)

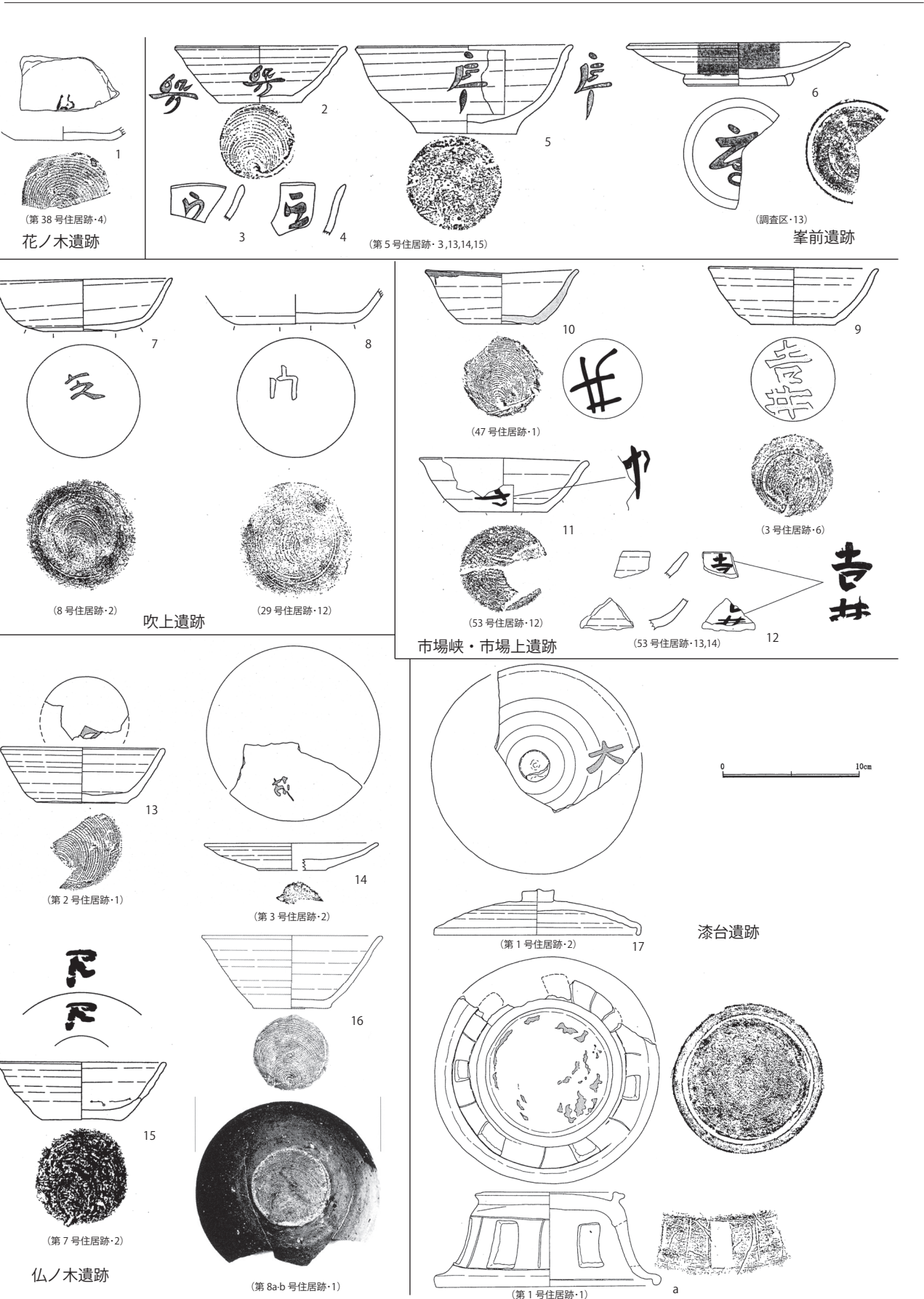


図2 和光市域出土の墨書土器
(遺物の番号は表1のNo.による。なお、○書きは各報告書で示された遺構名と遺物番号を示している。)

点検出されている点は注目される。「吉井」についての解釈は、当該発掘調査報告書中において依田賢仁氏が試みている。同氏は『続日本紀』天平神護二年（766）にある上野国の新羅人が「吉井連」の姓を賜ったとする記述と関連付け、彼らが「紡績関係の技能を持った職能集団として「吉井」という屋号を称していた」とする可能性を示しながら、他遺跡の事例から「井」は水源を示し、一文字目は所属する水源の名称に由来する、集団を称する屋号の成り立ちを想起させる一例」であることを示唆している²。後に述べるように、和光市域は『続日本紀』天平宝字2年8月癸亥条において「帰化の新羅僧卅二人、尼二人、男十九人、女廿一人を武蔵の国の閑地に移す、是れに於て始めて新羅郡を置く」³（図3）と記された新羅郡の一部に該当している。「吉井連」と「吉井」と記された墨書土器が同一の意味を表しているかは現時点で定かではないが、今後の議論に一つの材料を与える見解と言えるだろう。この点については別稿にて再考したい。

（3）墨書の記載位置について

墨書の記載位置は、表1にまとめたとおりである⁴。この限りでいえば、内面に記載されるよりも外面に記載されるものが多い傾向が見受けられる。釈文が判読されているものに限ってみると、外面に記載されているのは「加万」の合わせ文字、「守」「定」「井」「大」「巾（カ?）」である。内面に記載されているのは「尺（又は良）」が1点であり、「吉井」は内面・外面ともに1点ずつ見受けられる。検討対象資料の数量が少ないため、これをもって一概に傾向を述べることは難しい。釈文の解釈同様、他の事例を踏まえ検討すべき課題と言えよう。

4. まとめ

以上、和光市域において出土した墨書土器を概観した。墨書土器を記すことができたのは当時の識字者層であることは言うまでも無く、官人や僧等がそれに関わったことはほぼ間違いな

八月（中略）癸亥、帰化の新羅僧卅二人、尼二人、男十九人、女廿一人を武蔵の国の閑地に移す、是れに於て始めて新羅郡を置く	五（『続日本紀』） 天平宝字二年（七五八） 八月（中略）癸亥、帰化新羅僧卅二人、尼二人、男十九人、女廿一人、移武蔵国閑地、於是始置新羅郡焉
---	--

図3 『続日本紀』新羅郡建郡記事

（和光市1981『和光市史史料編一』p488-489より引用）

なお、左は右の訓読文である。

いだろう。先に述べたとおり、和光市域はかつて新羅郡（後の新座郡）と呼ばれる郡の一角をしめていたと考えられている。新羅郡内の識字層としては、建郡記事においてうかがえる「新羅僧」や「尼」らの存在のほか、郡としての行政を担う役人がそれにあたるものと推測される。墨書土器は外部から墨書されたうえで当地に搬入された可能性もあり得るが、漆台遺跡から須恵器製の円面硯が出土した点は、新羅郡域内において墨書を施すことができる環境があったことを証明する大きな材料と言えるだろう。

今回呈示した資料は和光市域に限られる。旧新羅郡（新座郡）域のこれまでの調査成果は近年『武蔵国・新羅郡の時代』としてまとめられた（鈴木・宮瀧2022）。同書は2018年に和光市において開催されたシンポジウム「新羅郡の時代を探る」の記録をまとめて刊行された本であり、旧新羅郡域の朝霞市・志木市・新座市・和光市域の発掘調査成果から新羅郡の実態の解明に迫るものであった。同書の中で宮瀧交二氏が「このシンポジウムが古代武蔵国の新羅郡研究の出発点」⁵と述べているように、新羅郡研究は今後も一層進められていくべきものであろう。地道な成果の蓄積を踏まえ、旧新羅郡（新座郡）域の実態に迫る一環として、同郡域から出土した墨書土器についても今後あらためて検討し、別稿にまとめる機会をもちたい。

【註】

1. 実見したところ墨汁状の痕跡が認められるものの、意図的な文字記載とは考えづらい。しかし、ここでは報告書に従い墨書土器の1つとして扱う。
2. 依田賢仁 2013「古代についてのまとめ」『市場峡・市場上遺跡（第18次・第19次）-和光市白子三丁目中央土地区画整理に伴う発掘調査報告書-』和光市遺跡調査会・和光市教育委員会,p95-96
3. 読み下しは図3に引用した『和光市史史料編一』p489による。
4. なお、市場峡・市場上遺跡第53号住居跡から出土した「巾」及び「吉井」の墨書土器は、発掘調査報告書中の遺物観察表（和光市遺跡調査会・和光市教育委員会 2013,p91）に「巾」が内面、「井」が内面、「吉」が外面とあるが、報告書本文及び遺物を再度実見した成果を踏まえて記載した。
5. 2018年11月24日、25日に和光市民文化センターサンアゼリアで「新羅郡の時代を探る」と題して開催されたシンポジウムの中で総括して述べられたものである。（鈴木一郎・宮瀧交二監修,シンポジウム「新羅郡の時代を探る」実行委員会編 2022『武蔵国 新羅郡の時代 朝霞市・志木市・新座市・和光市の古代遺跡をめぐる』雄山閣,p203）

【引用・参考文献】

- 埼玉県教育委員会編 2011『埼玉県資料叢書 11 古代・中世新出重要史料一』埼玉県
- 鈴木一郎 2015「和光・朝霞市域の奈良・平安時代の集落遺跡について -主に8世紀から9世紀を中心として-」『あらかわ』第16号,あらかわ考古談話会
- 鈴木一郎・宮瀧交二監修,シンポジウム「新羅郡の時代を探る」実行委員会編 2022『武蔵国 新羅郡の時代 朝霞市・志木市・新座市・和光市の古代遺跡をめぐる』雄山閣
- 和光市 1981『和光市史史料編一』
- 平川南 2000『墨書土器の研究』吉川弘文館
- 依田賢仁 2013「古代についてのまとめ」『市場峡・市場上遺跡（第18次・第19次）-和光市白子三丁目中央土地区画整理に伴う発掘調査報告書-』和光市遺跡調査会・和光市教育委員会

【報告書類（発行年順）】

- 和光市遺跡調査会・和光市教育委員会 1994『峯遺跡・

- 峯前遺跡』和光市埋蔵文化財調査報告書第12集
- 和光市教育委員会 1998『市内遺跡発掘調査報告書 1 花ノ木遺跡（第1次）・吹上遺跡（第2次）・漆台遺跡・白子向山遺跡・白子宿上遺跡（第5次）』和光市埋蔵文化財調査報告書第20集
- 和光市教育委員会 2002『市内遺跡発掘調査報告書 5 花ノ木遺跡（第6次）・仏ノ木遺跡（第2・3次）・峯前遺跡（第4・5次）・越後山遺跡（第1次）』和光市埋蔵文化財調査報告書第27集
- 和光市遺跡調査会・和光市教育委員会 2003『吹上遺跡（第3次）』和光市埋蔵文化財調査報告書第30集
- 和光市遺跡調査会・和光市教育委員会 2002『市場峡・市場上遺跡（第6次・第7次・第8次）』和光市埋蔵文化財調査報告書第28集
- 和光市教育委員会 2006『市内遺跡発掘調査報告書 9 午王山遺跡（第8次・第9次）旧石器時代編・仏ノ木遺跡（第4次）』和光市埋蔵文化財調査報告書第36集
- 和光市遺跡調査会・和光市教育委員会 2013『市場峡・市場上遺跡（第18次・第19次）』和光市埋蔵文化財調査報告書第51集
- 和光市遺跡調査会・和光市教育委員会 2014『市場峡・市場上遺跡（第12次）・仏ノ木遺跡（第5次）・半三池遺跡（第1次）』和光市埋蔵文化財調査報告書第56集
- 和光市教育委員会 2016『市内遺跡発掘調査報告書 19 花ノ木遺跡（第13次）・越後山遺跡（第7次）・峯前遺跡（第7次）』和光市埋蔵文化財調査報告書第62集
- 和光市教育委員会 2019『市内遺跡発掘調査報告書 22 仏ノ木遺跡（第6次・第7次）・市場峡・市場上遺跡（第25次）』和光市埋蔵文化財調査報告書第65集

【参考 URL】

- 明治大学日本古代学研究所：全国墨書土器・刻書土器、文字瓦横断検索データベース (<https://bokusho-db.kodaishiryō-db.jp/>)

なかおか たかひろ（和光市教育委員会）